

## 令和3年度 第2回社会教育委員会議 会議録（要旨）

- 1 日時：令和3年11月9日（火）10:00～12:02
- 2 場所：北九州市立生涯学習総合センター 3階ホール
- 3 出席者 委員 野依議長他 13名  
事務局 市民文化スポーツ局長 柏井 他 18名
- 4 議題、議事の概要
  - (1) 市民文化スポーツ局長あいさつ
  - (2) 議題
    - ア 議長・副議長の互選について
    - イ 北九州市生涯学習推進計画（令和2年度評価）について
    - ウ 社会教育委員会議の協議テーマについて
- 5 主な質疑応答、意見等

「議題（ア）議長・副議長の互選について」は、委員による互選の結果、議長に野依智子委員、副議長に山田明委員、宮本和代委員が選出された。

### 議題（イ）北九州市生涯学習推進計画（令和2年度評価）について

（事務局：令和2年度評価について説明）

委員：資料が非常に良くなったのではないかと思います。特にこういうふうに目標値があって、実績が出てくると、次の展開、いわゆる問題点がはっきりと出てくるだろうと思う。したがって、これは従前に比べると、私が見ても達成率がはっきり分かるし、そうすると次年度に何をやらないといけないかということが、より具体的に出てくるのではないかと思います。

テーマはこれが一番いいかどうかというのは別にして、資料として非常に分かりやすくなったので、これで事業のよし悪しがわかる。ここ1～2年はコロナの影響が出ているため、評価がやや遅れ気味なところは、当たり前の話だと思う。ですから、ぜひこういうやり方で問題点を浮き彫りにして、そして、チャレンジしていくことを続けていただければ、非常に分かりやすいと思っている。

議長：経年で目標とか成果を示すようにと、ご意見を頂いたように思う。そのような資料作りになって、本当に見やすい形になっていたと思う。

事務局：前回の会議の時に民間企業もそういった視点で取り組まれているということで、貴重なご意見を頂き、その点を踏まえて作成した。これが最終形ではなくて、さらによりいい形があればご意見頂きながら、変えていければと考えている。

委員：私は、今回から参加させていただくということで、このように前年度の全体像を、まず説明いただくことで、北九州市として、社会教育に関わる事業がどういったことが行われているかというのを全体概観できたので、議題に出ししていただいて非常にありがたかったなと思う。一方で、片や今、事務局から話があったように、実際には令和3年度も半期が終わって、折り返しになっているということで、確かに令和2年度はコロナの影響が非常にあり、それに対して、令和3年度の半期はこういうふうに動いているというような、本来であればそういう時期かなと思っている。多分この後、お話いただくとは思っているが、今後の2年間の予定が、資料3の別紙に、前年度評価が下期になってからの日程になっている。多分、去年から今年にかけては、この会議自体も延期とかいうこともあったと思っているが、正規の時期であれば、上期のうちにこうしたとりまとめをされたうえで、委員の皆さんに振り返りをさせていただくというのがタイミングとしてはいいのかなと思う。逆にそうなら、今回、私にとっては、それを前提に進んでいくので分かりづらかった、入りづらかった面もあると思うものの、これを見ていてそう思ったというのを1点申し上げておく。

2点目で、先ほど、こういう見える化をすることで、指標が実際に達成率を含めたところで、良さ悪さというのが非常に見えやすくなったというところが、改善された点というお話があったが、逆にいうと、それがあからこそ、見える化をして、そもそもこの目標でいいのかな、そもそもよかったのかなというのが、浮き彫りになった点というのがあると思っている。最初、これを順番に、施策1の頭を見たときに、No.2のまなびネットひまわりのアクセス数の目標値は、当初5年で設定されていたのかなと思うが、だんだん乖離があるので、本来であれば、そもそもこの目標値自体がどうだったのかという軌道修正を行う、あるいは、活動の方向性をどう見直すかみたいなのも含めてだと思いが、その目標設定自体も機能的に変える、または先ほどもあった、例えばコロナの影響で、オンラインを増やしていくという方向であれば、ネットを使ったところで強化すべき部分かと思うので、この場合はどちらかといったら、あまり見られていなかったものをコロナ以降でどうしていくかみたいなのころの対策も変わってくる、というところが見える化することでPDCAを回しやすくなるのかなと思っている。

これは、行政レビューを参考にされたということだったので、内部的には多分、いろいろやられてはいると思うが、本来であれば軌道修正されて、令和3年度の上期にこうしたところを出していただくと、より活発な議論というのもできたのかなと思って聞かせていただいた。

事務局：この結果を報告する時期については、市の中で、大体9月に決算の市議会で、前年度の取組みを総括して、評価していただく形を取っているもので、こういったものについても、基本的にはその近辺になろうかと思う。今回、11月がよかったのかどうかというのは少しあるが、いずれにしても、少し前の時期にやるとか、そういった工夫は考えさせていただきたい。

それから、目標設定については、確かにこの前計画の目標設定は、現実と乖離している部分があり、私たちもそれに苦しめられている部分が正直ある。今の計画の中で、状況に応じて修正をかけていくこともうたっているもので、最初に決めた目標にとらわれるのではなくて、状況に合わせて考えていく必要があると思う。今の計画の中では、そういったスタンスを取っていければと思っている。

委員：追加すると、非常に現状把握が、まず完全にできたと思う。現状把握が確実にできればできるほど、その問題点などが浮き彫りになるため、今後いろいろな面で改善がなされ、目標数値なども立てやすくなると思う。だから、重点思考というか、問題点に対してのチャレンジがしやすくなるので、まずはこのデータを大事にして対応していただければと思う。

#### 議題（ウ）社会教育委員会議の協議テーマについて

（事務局：協議テーマの選定について説明）

委員：テーマが“学びと活動の環”からということになっていて、今までご説明いただいた中でかなり「学び」のほうが「やや遅れ」みたいな形がある。今回、SDGsの達成ということで、1人も取り残さないという中で、デジタル化が今後かなり求められてくるかと思う。それが、地域の特に高齢者など、使いこなせないと情報の格差や、取り残されていく場合があるので、その辺の観点で、市民センターで学びなどが進められないかと考えている。この辺が必要ではないかと、私自身ことも考えている。

これから、国のほうでも、マイナンバーカードとか、あるいはスマホでいろいろな情報発信とか、健康保険とか、さまざまな部分が入ってくるわけだが、それを使いこなせないと置いていかれるという、その辺が生涯学習でできないかと思うが、考えを聞かせて欲しい。

事務局：今言われた、デジタル化というか、情報格差、デジタルデバイドの問題ということで、現状としては、市民センターでもかなりの回数、スマートフォンの初級講座など頻繁に開催している。講座をやるとなると、かなりの応募があるということでニーズが高いと私たちも認識している。

これからデジタル化が進んでいく中で、時代に取り残されないようにということで、特に高齢者の方の対応が必要になってくると思う。今の生涯学習推進計画の中にも、そういったところの対応が必要であるとうたっているのだから、これからもその視点は取り入れ、ニーズに応えるような取組みを進めていく。

この協議テーマの中に何か盛り込んでいくかについては、皆さんのご意見も頂ければと思う。

事務局：市民センターを担当している地域振興課から追加で説明させていただく。コロナ禍の中ではあるが、上半期中で3回、市民センターでもスマートフォン講座をやっている。この中身については、まずはスマートフォンを持たれていてもなかなか使いこなせていない方、また、スマートフォンを初めて触る方向けの初心者講座を3回開催させていただいた。今後、後期についても、同様に市民センターで10回程度のスマートフォン講座を開催する予定である。

議長：伺ったご意見については、協議テーマの中に入れ込むかどうかということについては、事務局と相談して、議長、副議長のほうで決定させていただければと思う。

委員：先ほど、「SDGs」という言葉が出てきたが、これは今、次世代のことを考えて、北九州市の産官学がスクラムを組んで、一生懸命取り組んでやっついこうとしている。こういう大きいテーマをこの学びの中に入れていたため、やはりその中で、デジタルの問題やDXの問題というのは、日本全体、非常に遅れが激しいということで、特に子どもたちに興味を持たせるというのは大事だろうと思うので、私は当然、何らかの形で入れ込んだほうがいいのではないかと思います。

委員：今のことや、この危機管理という部分にも関連すると思うが、やはりコロナからいろいろなことを学んで、そして新たな形に向かっていると思う。本当にデジタルを通じた情報提供のあり方というものの方が大事ではないかと思っている。正確な情報をいかに迅速に提供するか。この2年間で、例えばワクチン接種を巡っていろいろな混乱が起きてしまったり、かといって、例えば地域でまとまりがある所は、一気に正確な情報が伝わって沈静化に向かったりなど、本当にそういうものを、危機管理という観点からもデジタルを絡めて、正確な情報を、いかに早く、市民の皆さんに伝えるきっかけにできるような環境づくりというものを、ぜひ取り組んでいけたらと、個人的に思う。

委員：私もベースは企業にいるので、DX、デジタルというのは会社としても生き残る術として非常に大事だと思っている。また、復興支援で、東日本大震災の被災地の自治体に行って、コロナ前であるが、原発事故等ではばらばらになり、住民がこれまでの身近なつながりがなくなったということで、それをデジタル、タブレット等でどう補うかという活動を民間の力を借りながらやっている事例なども、横で見してきた。

今、委員の皆さんがおっしゃったように、このテーマが今後の1つの大きな核になるであろうというのは、非常に私も共感するところである。片や、このあと協議テーマを何回かやる、しかもグループディスカッションでやると考えたときに、この委員の皆さんに、そこに対する知見や、市のほうは市のほうで、市文以外の産業など、いろいろな所で連携して行う部分は多分あると思うが、この社会教育のところでは課題がありつつも、委員の皆さんで議論ができるということであれば、当然、テーマに取り入れてもいいのかなと思う。

私も、先ほど申し上げたような、民間や被災地で見聞きしたところについては、知見を申し上げることは可能だが、ほかの委員の皆さんとディスカッションをして、今、皆さんがおっしゃったように、多分こういう課題があるということはあると思うが、何らかのアイデアを出すというプラスの意見を皆さんが出せるということであれば、協議テーマにしかるべきかなと思いつつ聞いていた。

議長：デジタル化の問題や情報の格差をどうするか。そういった、とても具体的で、そして今、こういった大変な気象状況の中で求められている防災については、求められている内容だと思う。

ただ、社会教育の今回のテーマは、もう少し、社会教育としてどういったことを目標にするか。文部科学省のほうでは、「人づくり・地域づくり」をテーマにしているところで、デジタル化、情報の問題というのは、そういった大きな社会教育としての目標に、どのように取り込んでいったらいいのかという方法論になるかと思っている。

今、皆さんから頂いたご意見は、本当に貴重なご意見なので、今後、協議テーマに

ついてその辺を追加するかどうかについては、事務局と議長・副議長のほうで協議させていただければと思うが、よろしいか。

(一同「異議なし」)

議長：では、協議については、そのようにさせていただきたいと思う。

では、ひとまず、事務局案として提案させていただいた「“学びと活動の環”からつながる地域づくり・人づくり～SDGsの達成を目指して～」を基本にして、ご意見を踏まえて追加するかどうかを検討させていただきたいと思う。

本日は、協議テーマに具体的に取り組む前に、その前段として、委員の皆様と共通認識を持てるよう、協議の視点の一つとなるSDGsについて、市の担当課からの説明と、私から社会教育・生涯学習の概念等について、お話をさせていただければと思っている。

(SDGs 推進室の説明)

(「社会教育・生涯学習の概念と方法について」説明)

委員：初歩的なことだが、改めて社会教育を学ばせていただいた。学習は、やはり自主的にするということである。今、こういうコロナ禍において、いろいろなセンターの講座もなく、自主的に学習するというのがすごく難しくなっている。その中で、この活動をどうするかというところで、本当にセンターなどは、とても大きな役割があると思うが、その仕掛け人、オーガナイザーのところをもう少し発掘とか、人材バンクとか、講師で教えるだけではなくて、そういう人たちをもう少しリストアップして、シンクタンクとしていく必要がある。いろいろな団体ではあると思うが、そういう視点を少し持っていかないと、いつでも学べる、楽しい生涯学習、だけど、その学びが、自分だけで終わるのではなく、それをどうつなげていくかということまで持っていかなければいけないので、とても難しいところだと思う。

これから私たちが、何ができるのかをもう少し掘り下げて、また新たな、それをサポートする人材をどうするかということも考えていかなければ、ただやった、終わった、なかなか自分で学び直すというのは難しい。そして、公民館やセンターで学ぶこと、それがあとに続くかという、そこをまた考えていくといいのではないかなと思う。

委員：お二人お話を聞いていて、結局今、協議テーマに関わるころということでお話をインプットしていただいたと思う。先ほどの話の中で、何のためにやるのか、生涯教育にしる、こういう協議テーマをテーマアップすることについて考えたときに、先ほどおっしゃった中で、私なりに響いたキーワードは「幸福感」かなと思う。それはもちろん、やる本人も幸せになる。あるいは学習する皆さんと一緒に共同してやることで、関わる人が幸せになるといったところが最終的な目的で、やって楽しい、幸福になるからこういう活動をやるというところが、自主的にやっていく意義かなと思う。

最近読んだ、心理学者の樺沢紫苑さんという方が出している「幸福」の付いたタイトルの本の中で、幸福はどうやって醸成されるかというところと3つあると書いてあった。まず自分の体が健康であること。だから、ここでいう協議テーマの3番に関わるとこ

ろ。自分の健康があった上で、次は絆、つながり。これは家族にしろ、いろいろな団体にしろ、つながり、絆があることで、オキシトシンというホルモンが出てきて、それが自分の幸せにも非常にいい影響があると。3つ目に、まず自分の健康があり、続いて絆があった上で、何らか活動する達成感があると、人間はよりドーパミンという脳内ホルモンが出てきて幸せになるという3段階があるという話であった。

多分、今回の協議テーマについても、幸せになるためにというところでくくれば、3番目はまず自分の健康だし、1番なり2番のところで行くと、そういう地域内でつながることで2番目のオキシトシンが出る。その活動が、お互いよかったね、ありがとうというつながりができてドーパミンが出ることで、樺沢紫苑さんが言っていた幸福力のところが、今日の話聞きながら、ちょうどそれにつながっている話になるなど。

こういったことをやることで、SDGs や生涯教育という軸はあるだろうが、結果的に自分なり周りに関わる人の幸福につながるための活動だから、こういったことをやっていく意義があるみたいなところは、私なりに消化しながら聞いてたということ、ご報告しておきたいと思って発言させていただいた。

議長：今日は、最初の第1回目の会議でもあり、前期、委員として参加したけれども、あまり意見も言えなくてというご意見・ご感想を言われた方もいらっしゃるので、今日のご発言されていない方をお1人ずつ、SDGs や社会教育・生涯学習についてのところで、何か感想を伺えたらと思う。

委員：1点だけ、令和2年度の評価について、お尋ねしたい。事業の評価というところに、数値が現われているものに対して評価をしていると思うが、目標値が人数になっているところは非常に達成率が分かるが、目標値が人数ではなくて何パーセントという設定をしている根拠というか、どのようにしてこの数値を決めるのか。

目標値で数字、例えば何人の参加とか、何件のというふうに、具体的な単位が付くもので出されているものは非常に分かりやすいが、例えば67%など、パーセントというのは、何を期待しての数字なのか。パーセントで目標値を出しているものは、100%は何なのか。

事務局：数値で何人とかいうものは、入場者数や利用者数など、数値を数えられるものだが、割合で出しているものは、市政モニターへのアンケートで、一定の何十人とか何百人の方に抽出調査をして、満足度といったものを測っているものになる。全員にアンケートを採ることまではできないので、それを指標にさせていただいているところの違いになると考えている。

委員：今日は、大変勉強になった。初めてこちらの会議に参加させていただいたが、議長の話された学習サイクルについて、今回、大変勉強になった。団体に持ち帰り、今後勉強させていただこうと思う。

委員：戸畑区三六公民館の婦人会は、非常に興味深いなと思った。やはり公害問題という、非常に生活に直結する死活問題だからこそ、こういう社会教育・生涯学習というものが、地域から必要に生まれてきたのかなと思った。その後、社会が成長して、ある程度仕上がってしまった中で、そういう機運が下がってきた中で、改めてコロナという

生活、命に直結する問題が起きている。だからこそ、まさに今こそ社会教育・生涯学習のあり方をしっかり見直して、もう一度しっかりと広めていく必要があり、その転機なのかなと、個人的に議長のお話を伺いながら思った。

委員：SDGs、「誰一人取り残さない」というテーマは、今お話しいただいたように、社会教育・生涯学習にぴったりとはまっていくものだと思つた。

学校現場でも、与えられた課題をずっとこなしていくのではなくて、今は課題を自分たちで発見して、どうみんなが知恵を出し合いながら解決していくかということをお大切にしている。そういったことを、地域や周りの方の力を借りながら、経験を重ねていくことがいかに大切かということをお再認識した。また、これも現場に持ち帰りたいと思う。

先ほど、これまでの事業の取組みについての評価があったが、このコロナ禍にあつて、大変厳しい状況の中、学校でも「学びの保証」というところに大変苦慮してきた。しかしながら、その中で評価を見たら、数値がそれほど変わっていなかったり、例えば例を挙げると、読書率についても減少どころか上向きな状況になっている。こういったところを考えると、コロナ禍に何ができるか、それから、先ほどの方法論であるが、子どもたち、それから社会の情報格差をどのようになくしていくかということに、ご尽力いただいているのかなと思つた。市としての普及といったことも、学校現場には大変ありがたいと思つた。そういった観点からも、今後いろいろな形で、私も力を尽くしてまいりたいと思う。

委員：地域の町内子ども会では、幾らか集まっていると思うが、私たち、市全体、区全体では何もイベントができなくて、本当に寂しい状態でやっている。この9月も、勝山公園の横の紫川でハゼ釣り大会をする予定で、130組の親子に応募していただいたが、緊急事態宣言が出たため、できなくて本当に残念である。

校区はよく分からないが、小倉南区の子ども会の方から聞いたが、小倉南祭りを何とかしてやろうということで、オンライン的なことをされたようである。そのために、市民センターにWi-Fiを引いたとかいうことを聞いて、それぞれ進んでいるなど思つた。ZOOMやLINEで校区の会議をやっているということである。

まさに今日の、これからの協議テーマだと、学びのきっかけづくりのZOOMというものも、そういうことなのだろうなど思いつながら、これが全市の市民センターでできたらいいなど思つた。

委員：実は、子ども会で役員をやっているが、まさにそういう感じで、文化団体もそういうことも多少考えていかなければいけないのかなと、今、思っている。

先ほど、議長の戸畑の話は初めて知つたので、なるほどなど思つた。それでこういうふうになっているのだなどと勉強になった。

委員：北九州市では、去年はラグビーのワールドカップ、今年は世界体操を開催していただいた。大変な作業というか、準備と実施だつたと思うが、こういう大会は今後も開いていただきたいと思う。

実は、全国大会の車いすハンドボール大会が、去年コロナで中止になり、今年もコロナで中止になった。これも市の方には、だいぶご迷惑をおかけした感じになるが、現在、小学生のハンドボール教室をやっていて、それはこのコロナ禍にもかかわらず

過去最大の人数、それでも12人だが、今までは大体6～8人、多くて10人くらいだったが、そういう効果がハンドボールでは出ているように実感している。

最近、特にスポーツ離れが目立っていて、これは全国的に目立っているが、そういう中で、こういう機会を設けていただくことによって、さらに小学生、中学生に、スポーツに向かっていってもらえるような、そういう環境づくりになっているのではないかと思う。そういうことを考えると、このSDGsの健康という面でそういうところに関われるのではないかと思っている。

健康ということ、それから地域の活性化ということを考えても、このスポーツの役割は非常に大きいのではないかと思うので、ぜひ、今後ともよろしくお願ひしたいと思っている。

委員：ただ今、社会教育の話があったが、社会教育の究極の目的は「個人の成長と社会の発展」だと思う。そこに、先ほどお話しがあった個人の幸福感も入ると思うが、そのところが、いわゆるSDGsが求めているところと非常に合致するというので、今回の協議テーマの大きなくくりのところでは、そういう関連性があるかなと思う。

また、私が社会教育をしていてよく使う言葉の中に、「社会教育の底力」という言葉がある。時代がいつも開いてきたのは、社会教育に負うところが非常に大きいと。今のコロナの中でもそうだと思うが、その社会教育というものの底力が、これから新たな未来というか、その先を開いていくという形になったときに、1つ大きな捉え方が、やはりその底力がなぜあるかという、それはつながったり、つなげたりという、みんなでしていくこと。それがまちづくりや地域づくりにつながっていく。

そういうことをテーマにするときに、今回の新たな試みとして、それぞれの具体的な取組みを検証していきながら、より具体的に話をしていくという方向性が出てるのは、まさしく非常に素晴らしいことではないかと。

私たち社会教育の先輩の中にこういうことを言った人がいるが、「学習プログラムのなきところに社会教育なし」と言われて、参加をする人を集めるためには、まず的確なプログラムがないといけないと。そういうことを考えていくと、今回、こういうテーマを決めて、みんなでそこで学びあって、そこである程度方向性が見えていくという、これは非常に期待できるテーマになっているという気がした。

議長：今日のこの第2回を踏まえて、次回以降、幾つかのテーマ、事例について、皆さんとまた議論したいと思う。